

## 福井県におけるカキクダアザミウマの新発生

山本公志・野村豪一\*

Koshi YAMAMOTO and Hideichi NOMURA : Invasion of *Ponticulothrips diospyrosi* Haga et Okajima (Thysanoptera : Phlaeothripidae) on Japanese persimmon in Fukui Prefecture in 1989

カキの害虫であるカキクダアザミウマは、1975年に岡山県で初発生し<sup>1)</sup>、その後蔓延をつづけて中国、四国、九州、近畿、東海、信越および関東地方の26県で発生が確認されている。

福井県では1989年5月に三方郡三方町のカキ園で本種が発見された。その後の調査により県内のかかなり広い範囲に発生していることが確認されたので、その概要を報告する。

報告にあたり本種の同定を賜った農林水産省蚕糸・昆虫農業技術研究所宮崎昌久室長に厚くお礼申しあげる。

### 発生概要

福井県のカキの栽培面積はおよそ124 haで、その多くは山間、山沿い地帯に植栽されている。

カキクダアザミウマは、1989年5月30日に三方郡三方町世久津のカキ園で、品種富なおよび蜂屋に発生していた。被害葉は葉の両端から内側に巻き、その中に本種の成虫が1~2頭と多くの卵および幼虫が生息していた。被害葉内にクモ類がいると本種の生息数は少なかった。被害葉には淡褐色~黒褐色の円い斑点が多く生じ、軽い火ぶくれ状になっていた。

県内の発生地域は第1表、第1図のとおりである。

第1表 カキクダアザミウマの発生地域 (1989)

発見月日	発生市町村
5月30日	三方町
6. 3	美浜町
6. 4	上中町
6. 6	小浜市、名田庄村、大飯町、高浜町
6. 7	敦賀市
6. 12	今庄町、南条町、武生市、鯖江市、福井市
6. 22	朝日町

本種による被害は、山沿いに植栽されているカキに多く発生しており、また山に自生しているカキにも認めら



第1図 福井県におけるカキクダアザミウマの発生分布 (1989)



第2図 カキクダアザミウマによるカキの被害

福井県病害虫防除所 Fukui Plant Protection Office, Ryomachi, Fukui, Fukui 910

\*福井県園芸試験場 Fukui Horticultural Experiment Station, Mihama, Mikata, Fukui 919-11

れた。しかし平野部のそれには少なかった。発生地域の平均被害葉率は0.3%, 多発生地の被害葉率5%, 発生面積20haであった。

遠敷郡上中町における7月中旬の調査では、巻葉した被害部は枯死し、それらの葉は多くは落ちていた。幼果には直径0.7mm前後の淡褐色～黒褐色の円い斑点が多く生じていた。がく片にも被害痕がみられた(第2図)。

この時期の虫態は第1世代成虫がほとんどで、一部蛹であった。成虫は巻いた被害葉から周辺の葉に移動し、その裏側に寄生していた。それらの葉にも斑入り模様や淡褐色～黒褐色の斑点がみられた。

第1世代成虫はカキや近辺のヒノキ、スギの樹皮間隙に1頭から数十頭群をなして潜入していた。本種の越冬場所はカキ、アカマツ、ヒノキ、クスギおよびスギなどの粗皮間隙であるといわれている<sup>2,3)</sup>。

広島県では本種は年に2回発生することが確認されている<sup>4)</sup>。

福井県のように山沿いに多く植栽されているカキには、本種が今後大きな被害をもたらすことが極めて憂慮され、詳細な発生実態の調査とより有効な対策の確立が望まれる。

#### 引用文献

- 1) 逸見 尚 (1979) カキを加害する新しいスリップス「カキクダアザミウマ *Liothrips* sp.」。植物防疫 33: 231~235.
- 2) 逸見 尚・橋本修二 (1984) カキクダアザミウマの生態・被害と防除対策。植物防疫 38: 312~315.
- 3) 広島県試・奈良農試・奈良病害虫防除所 (1989) カキのカキクダアザミウマ。農作物有害動物発生予察特別報告 36: 13~15, 農林水産省植物防疫課, 188 pp.
- 4) 松本 要 (1987) カキクダアザミウマの第2世代の発生について。応動昆 31: 172~174. (1989年8月14日受領)